

写真をスキャンするという 忘れかけていた芸術

LaserSoft Imaging社は34年間画像のスキャン技術開発に専念してきましたが、まだまだ新しい開発があります。数十年の経験から蓄積されたノウハウが、受賞歴のあるスキャナソフトウェアSilverFastの最新バージョン9に注ぎ込まれました。

スキャン後の画像を初めて見て、1990年代のアナログ写真の美しい時代にタイムスリップしたような気分になりました。

スキャン開始における特徴

基本的にアナログ画像のスキャンは、単純な文書のスキャンとは大きく異なります。これは特にフィルム素材をスキャンする場合に当てはまり、色の忠実度と高い階調範囲でのデータ取り込みが重要になります。これらの要件を満たし、スキャンの色がオリジナルに近くなるようにするために、反射原稿か透過原稿かを問わず、スキャナ自体を較正する必要があります。SilverFastのソフトウェアでは、このステップを自動化することができます。モニターキャリブレーションと同様に、スキャナの目標状態と実際の状態と比較します。目標状態は、いわゆる「IT8ターゲット」と呼ばれるカラーフィールドとグラデーションを持つカラーチャートで表されます。SilverFast IT8キャリブレーション機能は、この「IT8ターゲット」のスキャン結果を参照ファイルと比較します。目標の状態と実際の状態の間で自然に生じる差が、スキャナプロファイルを作成するために使用されます。LaserSoft Imaging社は、これらの



ともすると、多くの機能やアイコンがあることに圧倒されるかもしれません。しかし、SilverFastの新バージョン9では、全てが厳密かつ分かりやすい順序に並んでいます。

「IT8ターゲット」を、反射原稿用および透過原稿用に優れた品質で製造しています。

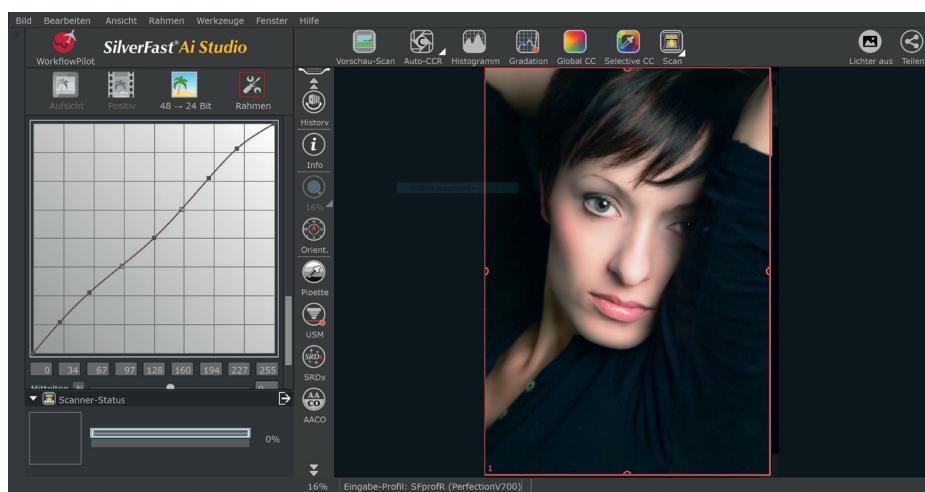
さて、実際のスキャン処理を始めよう。ソフトウェアの最初の起動を見ると、開発者が多くのことを考え出したことがすぐにわかります。ダークモードは全く新しいもので、その名が示すように、インターフェイスをダークグレーに表示します。これはモダンに見えるだけでなく、色調値や色を評価するのにも非常に優れています。また、ソフトウェアのライセンス

番号やスキャナのシリアル番号を面倒な方法で入力する必要がないことも気づいたことでしょう。最初にライセンスを取得したスキャナが壊れたり、他のモデルと交換した場合に、別のスキャナへのライセンスを2回変更することもできます。これは従来のバージョンではできなかったことです。こうしたことは、すべてユーザー アカウントで管理されており、とても快適になったといえます。

初めてSilverFastでスキャンする場合、多数のボタンや略語に戸惑うかもしれません。しかし、安心してください。すべてが良識的にレイアウトされていて、よく見れば、多くの場合、自明のことで理解できます。それでも分からぬ場合は、スキャンプロセスの案内機能であるワークフローパイロット機能を開始することができます。タスクごとに異なるワークフローが用意されています。この機能は、初めてのスキャンだけでなく、扱いに慣れてきた後に行うであろう手動スキャンの入門編としても間違いなく素晴らしいものです。

SilverFastの特別な点

SilverFast 9でのスキャンの特徴は、革新的な技術による設定だけではなく、既に馴染みのある標準的な設定と組み合



グラデーションカーブなどの基本的なツールは、SilverFast 9スキャンソフトウェアに基本機能として備わっています。



透明原稿(ここではポジティブスライド)をスキャンする際に役立つのは、スキャナの赤外線チャンネルを使用してホコリや傷を除去することです。拡大プレビューでは、次のスキャンで除去される検出された領域が赤でマークされています。

わせることができる点です。グラデーションカーブ、アンシャープマスク、ノイズリダクション、グローバル色補正および選択的色補正のような標準的な設定に加えて、マルチエクスプロージャー(多重露光)機能やiSRD不具合除去機能が含まれているのです。マルチエクスプロージャー機能は、写真的HDR撮影と同様に、透過光を2回スキャンすることで階調範囲を広げます。また、この機能は起動するだけで、スキャン時に自動的に実行されます。しかし、ダイナミックレンジの広がりは、スキャナーとフィルム素材の組み合わせに大きく依存します。例えば、コダクロームのスライドをマルチエクスプロージャー機能を有効にしてスキャンすると、影の部分がより鮮明になります。

不具合除去とは、ホコリやキズを検出して除去することです。略語iSRDの小さいiは赤外線の略です。多くのスキャナには、このような赤外線チャンネルがあり、その光が通常の光とは異なる反射をしています。凹凸、すなわち高台としてのホコリや窪みとしてのキズが認識され、画像から計算することができます。この不具合除去には、異なるモードがあります。「不具合をマークする」モードでは、肉眼では見えない古いスライドの上にあるホコリや汚れを赤マークで見ることができます。「自動」モードにすると、スキャンの最中に不具合の除去計算をし実行します。お使いのスキャナに赤外線チャンネルがない場合は、ソフトウェアに既に備わっているSRDxと呼ばれるホコリ除去機能があります。

新しいソフトウェアのもう一つの特徴は、スキャンのためのビット深度設定が豊富に選択できることです。3つのセクションのうち、まず最初に、ウェブ・電子

メール・ソーシャルメディア・小さなプリントアウトなどの一般的な出力目的のためのセクションがあります。ここでは、ソフトウェアで使用される基本的な最大ビット深度は48ビットですが、カラーは24ビットに、グレースケールは8ビットに縮小されています。2番目のセクションでは、完全なビット深度が保持されます。これらの設定は、Photoshopなどの画像編集ソフトに送るスキャンのためのものです。

3番目のセクションはとても際立った特徴といえます。ここには、RAWデータをスキャンするための設定があります。カメラからのRAWデータと同様に、処理やフォーマット変換による損失がなく、スキャナで撮影したデータはすべて1対1で保存されます。これは赤外線チャンネルにも適用され、64bitのHDRi^{RAW}設定でも追加記録されます。このフォーマットは主にアーカイブスキャンに使用されており、フレッシュスキャンのように

後から再利用して出力することができます。このようなことは、RAWフォーマットでのデジタル写真では既にお馴染みのことでしょう。

新たに追加された特徴

前バージョンのSilverFast 8との最も顕著な違いの一つは、大幅に高速化されたことです(メーカーによると最大70%)。そしてそれを実感することができます。ワークフローも最適化されているようです。アンシャープマスキングやホコリ除去などの機能をプレビューで拡大し、仕上がり状態を確認しながら作業ができます。すべての補正をしてスキャンボタンをクリックすると、待ち時間もなく作業が完了します。

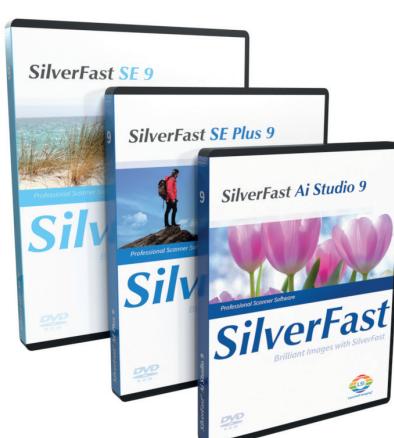
また、前バージョンとの分かりやすい比較としては、視覚的な違いが多く見られます。ダークモードについてはすでに説明しました。また、WorkflowPilotからアクセスできるマニュアルやチュートリアルビデオも書き換えられ、拡張されています。WorkflowPilotにはバッチ処理機能が搭載されており、これは本当に便利です。

このバッチ処理についてですが、SilverFastのJobManagerという機能で詳細を実行できます。この機能も大規模な改良が施され、さらに迅速かつ簡単に処理できるように、いわゆるクリックエディットダイアログが追加されています。異なるスキャンジョブを設定したり、ジョブ間で設定をコピーしたりすることができます。一連のジョブ(異なるスキャンなど)が作成されたら、「スタート」をクリックするだけで完了です。

結論

LaserSoft Imaging社は、SilverFastスキャンソフトウェアで常に忘れ去られていたスキャン技術を最新のものにしてきました。最新のバージョン9では、膨大な機能と最高の品質を同時に実現し、驚くほどシンプルな操作性を実現する方向に決定的な一步を踏み出すことに成功しました。私のテストでは、反射原稿でも透過原稿でも、数回クリックするだけで本当に驚くようなスキャンを得ることができました。さらに、このソフトウェアはスムーズかつ確実に動作します。安定した動作は、私にとっては、プロのソフトウェアといえるかどうかの一つの基準です。アナログアーカイブをデジタル化したいのであれば、SilverFast 9を是非ご覧になってみてください。

www.SilverFast.com/



LaserSoft Imaging社のスキャナソフトSilverFastのエントリー版、ベーシック版、プロフェッショナル版(後ろから順に)。